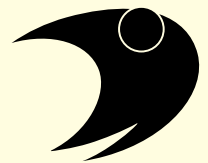


広島県をはじめ広島・山口両県にまたがる広島湾域6市16町の自治体と商工会議所・商工会で組織する「広島湾ベイエリア・海生都市圏研究協議会」では、海から見た都市づくりをめざす「海生都市圏構想」実現のため、共生・分担・交流・連携をキーワードに積極的な事業を展開しています。このコーナーでは、湾域各市・町の様々な情報を毎月ご紹介しています。



音戸町

人口：「15,244人」
(平成14年9月1日現在
住民基本台帳による)
面積：「18.73km²」
町の花：「さつき」
町の木：「ヤマモモ」
キャッチフレーズ：
「きらきらひかる せと
のまち 音戸」

海の恵みで育まれたまち－音戸町



↑町内外の人で賑わうカキ祭り

←総勢500人に及ぶ大名行列

音戸町は、瀬戸内に浮かぶ島のまち。本土側の呉市とは、平清盛が切り開いた幅70メートルの海峡、「音戸の瀬戸」で隔てられています。昭和36年、その海峡に深紅の音戸大橋（日本初のアーチ型らせん式高架橋）が架かり、音戸町のシンボルとして親しまれ、舟、車共に行き交う景観は、まちの人のみならず、訪れる人の眼を楽ませてくださいます。橋の完成後、島の暮らしが便利になったことは、まぎれもありませんが、時代がどんなに変わろうとも、島の人々にとつて、海は依然として心深くに存在し、音戸のまちは、海と共にあります。

ならず、訪れる人の眼を楽ませてくださいます。橋の完成後、島の暮らしが便利になったことは、まぎれもありませんが、時代がどんなに変わろうとも、島の人々にとつて、海は依然として心深くに存在し、音戸のまちは、海と共にあります。

清盛祭

1日で音戸の瀬戸を切り開いた平清盛の偉業を偲び、清盛の没後は念仏を唱えながら踊る「念仏踊り」が開催されています。それがやがて百万石の格式を持つ大名行列となり、「清盛祭」として今に伝わっています。清盛祭は戦後しばらく途絶えていましたが、平成3年以後は5年に一度の間隔で開催され、本年4月には、町制70周年を記念し、町をあげて盛大に開催されました。

音戸のカキとチリメンは、味も品質も一級品

音戸カキは、清浄カキとして早い時期から生カキとして食べられます。また、チリメンは、近海で獲れるカタクチイワシを夏から秋にかけて天日に干した瀬戸内の特産物で、「音戸チリメン」として全国にも有名です。音戸町の冬のイベントといえば、カキ祭り。カ

キ養殖の盛んな当町では、毎年2月に3か所で催されます。新鮮なカキが樽酒とともにふるまわれ、辺り一面食欲をそそる潮の香りに包まれます。海産物の販売もあり、多くの人で賑わいます。また、音戸には鯛浜という地名があるほどイワシ漁が盛んなことから、漁網の製造と加工が発達してきました。特にモジ網の仕立ては日本一で、糸をモジって編んでいるモジ網は結び目がなく、魚を痛めず抵抗も少ない。音戸で生まれ、今では漁網だけでなくゴルフネットや健康タオルなど幅広い用途に用いられています。

交流と未来を担う橋 第2音戸大橋（仮称）

現在の音戸大橋が架橋されて以来、音戸町の利便性は確実に高まりましたが、同時に周辺の慢性的な交通渋滞の問題や災害など緊急時に橋が果たす機能の問題など、課題も認められています。そこで現在、着々と事業が進められているのが「第2音戸大橋（仮称）」の架橋です。

この橋が完成すれば呉市や広島市をはじめ他市町村との連絡が飛躍的に向上し、その結果、音戸に訪れやすい・住みやすい環境がさらに整うものと期待されます。この橋の完成に向けて音戸町でも「海峡のまち」としての魅力を高めるとともに、積極的なPR活動の展開に努めています。

■音戸町のイベント情報■

(平成14年)

文化講演会

とき 11月24日(日)午後1時30分

ところ 高須小学校体育館

講師 由美 かおる、山内 鉄也

【問合せ先】

音戸町役場企画課

TEL (0823) 52-1114

(平成15年)

カキ祭り

とき 2月上旬から下旬にかけて

の日曜日

ところ 音戸町北隠渡、田原、早瀬

E-mail : kikaku@town.ondo.hiroshima.jp



1日数百隻の舟が行き交う音戸の瀬戸